スペインスケッチ紀行(4) コスタ・デル・ソル周辺の環境

専門会員 小 泉 実 Minoru Koizumi

1. セビーリア

街では、ジャカランタという紫色の花が咲いて、あでやかさを増していた。ここはフラメンコの本場でもある。そのショーでは、高らかな歌声にタップやカスタネットをひびかせて、体は舞い激しくくりだされる脚、腕、細い指先はさまざまに変化する。そして、美しい顔には哀愁がただよっている(図1)。

翌朝はロンダに向けてセビリアを発つ、途中でサハラの集落を見つけて車中よりスケッチしたのが図3である。

図1 フラメンコ

図2 中庭を見る

車窓からの景観は、点在するオリーブの樹々のほかなにもない。こうした所で広告塔の多い日本の郊外にくらべると自然そのものである。

2. ロンダ

ロンダにあるヌエボ橋の景観は一見にあたいする。

それは、大西洋に流れでるグアダルキビル川によって削られた、深さ100mのタホの谷にかかるものである。

橋のたもとにたどりつき、落ちないようにしながらスケッチした(図4)。

そのきりたった崖の縁に美しい建物群が並び、おのお

図3 サハラ遠望

図4 ロンダの橋

図5 シャンデリア

図6 ミハスの街並

図7 ミハスの景観

図9 たそがれどきのコスタ・デル・ソル

図8 アンダルシアの周辺

図10 ナトリウム灯による海岸道路

のの室内には、図5にみるようなシャンデリアをそなえたインテリアが待っている。

3. ミハス

ロンダから山波を越えてコスタデルソールへおりてゆくと、地中海沿いに美しい住宅群が続いていた。

白い街ミハスは、海岸線から少し山の手へはいった斜面に位置しており、白い壁とセピア色の屋根が自然の景観によくとけ込み、すばらしい所だった(図6)。

この街の高い所に闘牛場があり、私はその最上段から街並みを描くことができた(図7)。

4. トレモリーノス

コスタ・デル・ソルでの宿泊はミハスから近いトレモリーノスである(図8)。

午後7時、まだ陽が高いので地中海の潮風にさそわれて散歩していると、いつのまにか陽が傾き、海岸沿いの街灯が点灯しはじめ、時刻は9時をさしていた(図9)。

夕陽とナトリウム灯がよくなじみ、海岸の生物に対しても優しく、正しい選択であると思った(図10)。

今回は、バルセロナとその周辺環境について紹介する。